

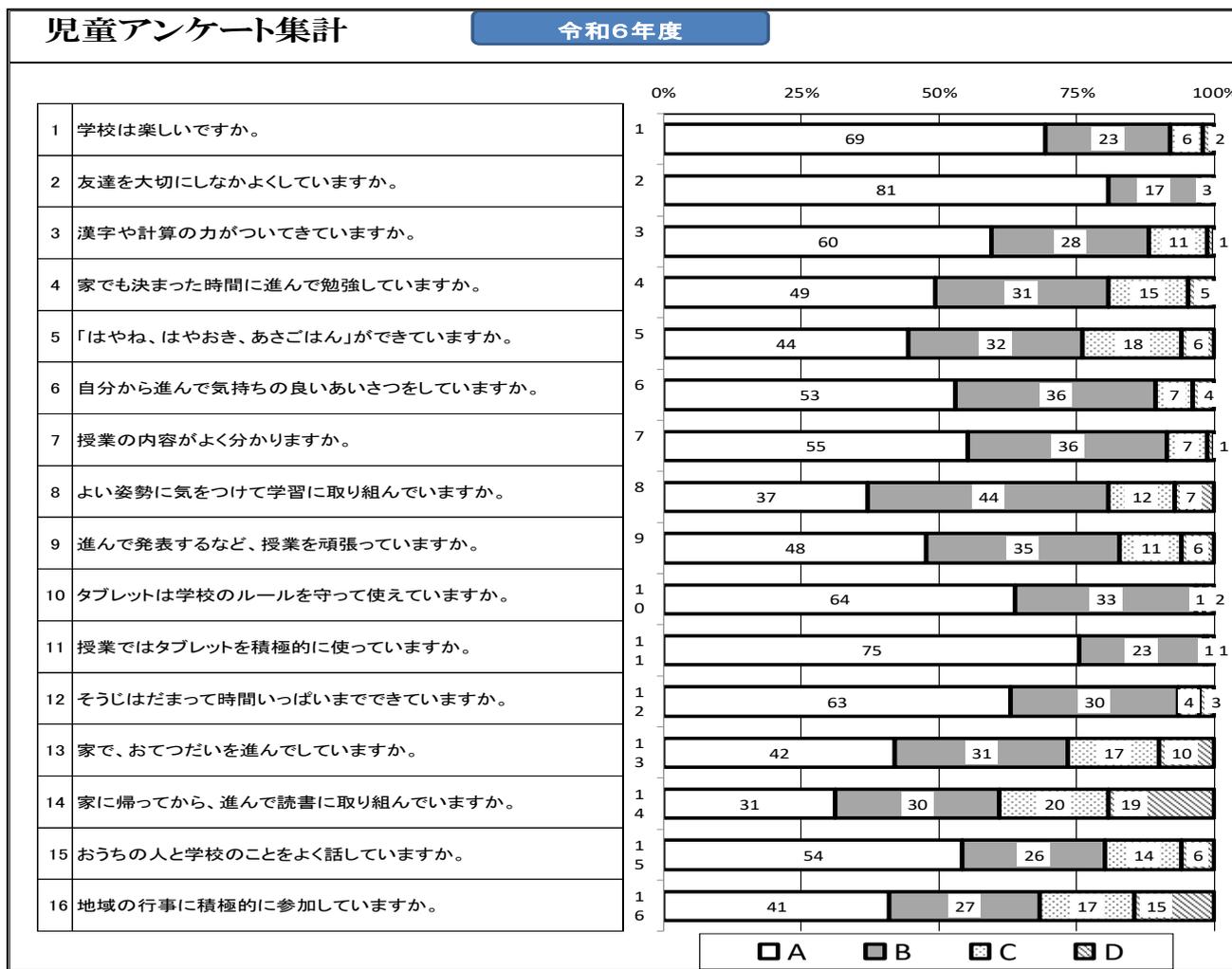
令和6年度 学校評価の結果・分析について

新居浜市立新居浜小学校

1 アンケート調査の概要

- (1) 実施時期 12月
- (2) 調査対象及び人数
 児童(無記名) 156名 (回収率99%)
 保護者(無記名) 142名 (回収率90%)
- (3) 調査方法 タブレット等を活用した google フォーム

2 アンケートの結果と分析



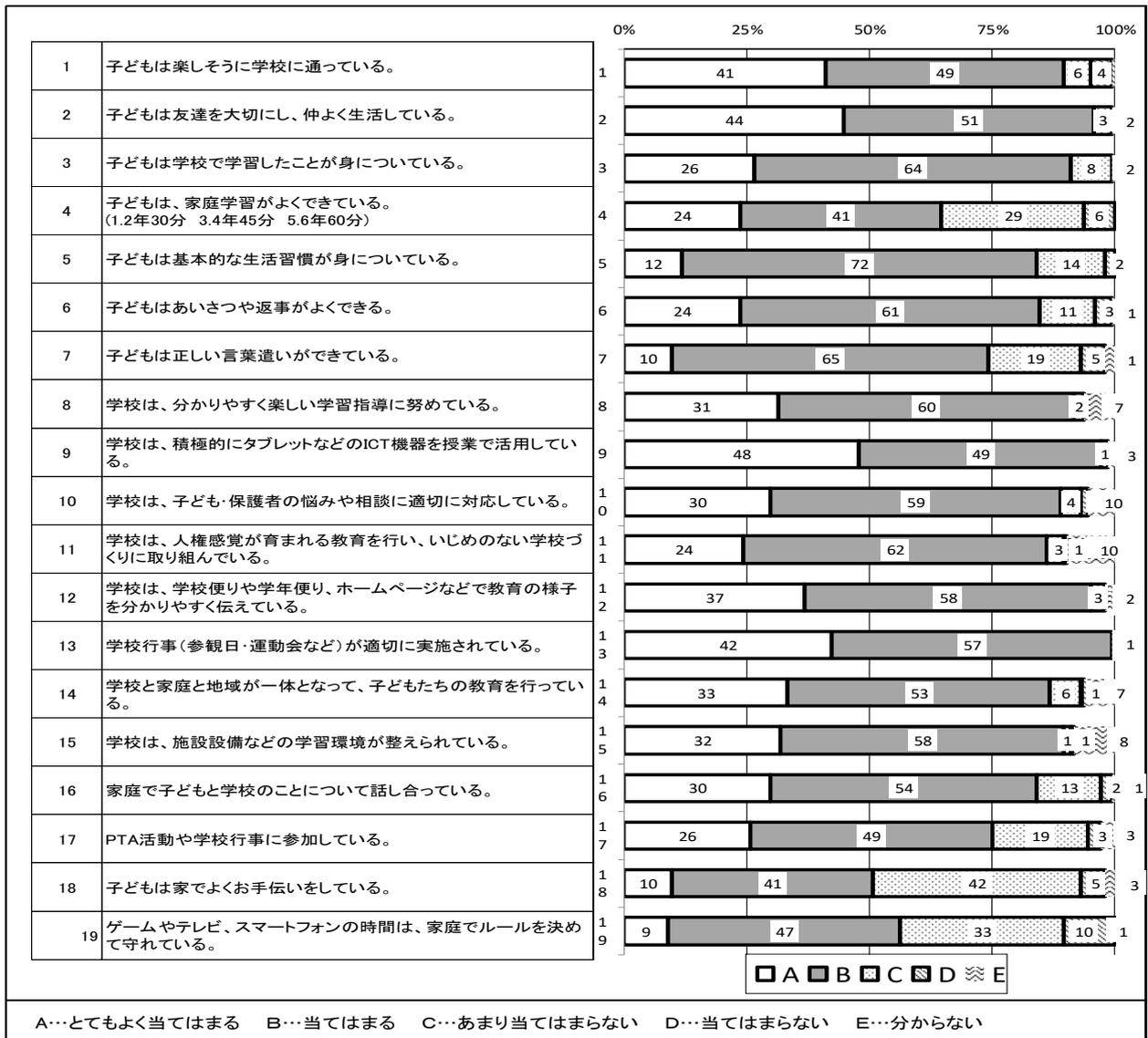
<児童アンケートについて>

- 全体的に「よくできている」「できている」と感じている児童が増えている。
- 今年度は学校生活が本来の形に戻り、①「学校は楽しい」②「友達と仲よく」の児童90%以上が「よくできている」「できている」と感じている。一方で、「楽しくない」と感じている児童もいることから、児童一人一人への関わり、その思いをくみ取りながら教育活動を進めていきたい。

- ⑪「タブレットを積極的に使っている」では、児童のタブレット技能も高くなり、様々な場面で活用できていると児童も感じている。
- ⑭「読書に進んで取り組んでいる」では、昨年度よりやや低くなっている。家庭でタブレットを使用する場面が増える一方で、読書に親しむ時間が少なくなっていることも考えられる。今後は、家庭への啓発とともに、読書の奨励を推進する活動をさらに進めていきたい。

保護者アンケート学校全体集計

令和6年度



<保護者アンケートについて>

- ほとんどの項目で80%以上「よく当てはまる」「当てはまる」という回答から、本校の教育にご理解、ご協力を頂いていることが分かる。また、保護者の方も児童の様子から①「学校生活を楽しんでいる」②「友達を大切にし、仲良く生活できている」と感じている。
- また、⑨「授業でのICT機器の活用」では、児童の習熟度も上がり、授業や家庭でも

活用できていることも保護者も実感している。

- ⑱「ゲームやテレビ、スマートフォンの時間は、家庭でルールを決めている」では、児童との意識に差がある。スマホやタブレット、SNSなど使用のルールについて、家庭に啓発するとともに、学校においてもタブレットの使い方や情報モラルについて学習を、発達段階に応じて実施する必要がある。

2 学校運営協議会による今後の取組について

- 学習指導
 - ・ 読み聞かせや図書委員会のイベントなど、児童のアイデアを生かした活動を行うとともに、読書の楽しさに触れる機会を増やしていく。
 - ・ タブレットの活用が定着している半面、使い方がややルーズになってきている傾向にある。教員がタブレット等の使い方やルール（新居浜市からのルール）の再確認をしておくとともに、児童への情報モラルやリテラシーの学習や指導を適宜していく。
- 家庭生活
 - ・ ゲームやテレビ、スマートフォンの使い方や長時間使用の弊害等について、児童や保護者に啓発するとともに、出前講座を適宜行うなど、情報モラル教育に力を入れる。